

中外製薬株式会社 横浜研究拠点プロジェクト
環境影響評価準備書に関する指摘事項等一覧

※表中の**ゴシック体**の部分は、前回（第 9 回）審査会における追加の指摘事項等を示しています。

■事業計画について

項目	指摘、質問事項等	事業者の説明等	取扱い
事業計画	研究所員の自動車使用を厳しく制限しているが、戸塚駅から遠く、夜遅くまで勤務することもあると思うので、電気自動車などの対策も考えてはどうか。 [9/14 審査会]	その点は検討したが、夜間遅くの車通勤は危険が伴う可能性もあるので排除した。仕方がない場合は、許可を得た上で、車で通勤する形を取りたい。駅から 10 分程度はそれほど遠い距離ではないので、このような運用で進めたいと考えている。 [9/14 審査会]	説明済 [9/14 審査会]
	【審議での指摘事項等】 研究所員の自動車使用制限に関する指摘は、戸塚駅から現地まで夜は結構暗く、女性研究員が歩くのはいかななものかと思うので、車の質を高める方向がいいかと考えて述べた。事業者の考えがあるので、これ以上は指摘しないが、実現可能性が高い方にした方がいいのではないか。 [9/14 審査会]	—	審議内容を事業者に申し伝えた。
	停電になった場合、自家発電により安全対策を全て賄うことができるのか。 [9/14 審査会]	自家発電により、重要なポイントは 72 時間、重油で対応できる。都市ガスが止まらなければ、コージェネレーションシステムにより発電できる。安全対策はできると考えている。また、主要建物はほとんど免震構造とし、震度 7 でも壊れないよう設計している。 [9/14 審査会]	説明済 [9/14 審査会]
	意見書を踏まえて何か計画を見直すことはないということだが、まだ十分な理解を得られていない状況で、それを全て払拭するのは難しいと思うが、その努力が求められていると思う。 [10/31 審査会]	承知した。 [10/31 審査会]	説明済 [10/31 審査会]

事業計画 (浸水関連)	雨水流出抑制槽に屋根やアスファルト舗装の水が流れ込むのであれば、アスファルト舗装をそのままとせずに草地として管理し、土壌の部分で流出を吸収してあげるといように、植栽をうまく使ってオンサイトの流出を減らすことを検討しているか。 [9/14 審査会]	グリーンインフラを採用できないか、全面アスファルト舗装が治水の意味で良いのかなど、現在検討している。もう少し時間をいただき、前向きにいい方向で報告できればと思っている。 [9/14 審査会]	補足資料 1 で 説明予定 【本日】
	グリーンインフラの検討は、詳細が明らかになったら報告すること。 [9/14 審査会]	—	
	<u>グリーンインフラについて、緩衝量のある程度予測することができると思う。現状の調整池に対してどれだけの機能を持つかを示すことができるのか。</u> [10/31 審査会]	<u>まだ正確な数字ではないが、現在のところ、西側敷地で約 600 トン、約 10%の流出抑制槽の強化につながるのではないかという見込みまでたっている。もう少し正確に設備を検討して、報告したいと思う。</u> [10/31 審査会]	
	<u>集水の仕方がポイントなので、地形をうまく活かして、高い側からより浸透貯留できるレイアウトや地下空間の確保ができれば、少しずつ緩衝量を確保できると思う。断面の詳細な検討をし、調整池以外の部分でいかに緩衝できるかを詰めてもらいたい。</u> [10/31 審査会]	—	
	内水氾濫シミュレーションの考察で、西側エリアの緑道の高さを道路路面と同一にしたので緑道に水が流れ込むとあるが、緑道に流れ込んだ水は外にいかない想定ということか。 [9/14 審査会]	緑道の高さレベルを隣接道路と同じにして、排水溝を作り、道路や緑道の雨水を雨水流出抑制槽に流れるようにしたいと考えている。緑道の一部にグリーンインフラを検討しながら、治水に努力していきたいと考えている。 [9/14 審査会]	説明済 [9/14 審査会]
	緑道の水も雨水流出抑制槽に入るといふことでよいか。 [9/14 審査会]	そうです。 [9/14 審査会]	

事業計画 (浸水関連)	内水氾濫シミュレーションの解析手法や条件設定は、横浜市の公開データと同様の結果が得られることを確認した上で盛土の影響等を解析しているので、手順はしっかり取り組まれている印象を受けた。盛土により流入しなくなった水について、解析の結果では他所に悪影響を及ぼさないとのことだが、結局その水はどこにいったのか。 [9/27 審査会]	横浜市のハザードマップを作った専門会社に依頼し、下水道の条件やレベル等を全てデータとして入れた上で、盛土と都市計画道路の条件を設定して解析した。専門会社のコメントでは、地盤が高くなることと都市計画道路が高くなること、東西の敷地にそれぞれ約6,000トンの雨水流出抑制槽を作ることにより、この付近での水があふれにくくなるということである。これは雨水流出抑制槽を介しながら下水道への負荷を軽減することで、その結果として、この近隣地域には盛土の影響が出てこないというコメントであった。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]
	説明会で住民の方から「昨今の豪雨や台風を踏まえ、雨量の前提を変えた方がいいのではないか」という御意見があった。想定外の水害が起こった場合について、この事業によって悪化させているわけではないことを解析的に示すことはできるか。例えば、30年に1回の確率の降雨量(76.5mm/h)より大きい雨量で計算し、盛土の影響を検討する余地はあるのか。 [9/27 審査会]	現状では解析結果と比較できるデータがハザードマップの76.5mm/hしかないので、その降雨量の時に本事業はどう影響するかをシミュレーションした。例えば100mm/hとすれば、当然これよりも水位が上がってくると思うが、それと比較するデータがないので、降雨量を増やしたシミュレーションを行う予定はない。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]
	住民の方の感情を考えると、色々な条件の雨が降る可能性があるもので、検討しておいた方が周辺の住民の方も安心されると思う。横浜市と同様の結果が再現できるこの解析を用いれば、もっと激しい雨が降った場合の盛土の影響は、立地条件が変わるわけではなく、水の入る境界条件が変わって解析するだけなので、一応検討出来る気がするが、それは難しいか。 [9/27 審査会]	検討や専門会社への依頼は、お金がかかるが難しくはない。ただし、その結果が盛土の影響かどうかは、盛土をやらない評価もしないと分からず、両方の条件を併せてやらないといけないので、まず76.5mm/hの比較を提示して説明した。 [9/27 審査会] <u>改めて考え方を精査したが、コストの問題ではなく、意見書に対する事業者の見解*のとおり、一企業が条件を設定し、シミュレーションを実施することは、正確性に乏しく、社会的な影響を与えるおそれがあるため、実施が困難であると考えている。</u> <u>[10/31 審査会]</u>	説明実施 [9/27 審査会] 説明済 [10/31 審査会]

※「準備書に対する意見書の概要及び事業者の見解」22ページ 事業者の見解⁷ (第9回審査会事業者資料)

事業計画 (浸水関連)	住民説明会で浸水に関する説明をした際、住民の方々の反応はどうだったか。概ね仕方がないという反応をいただいたのか、盛土がすごく心配であるという反応をいただいたのか。 [9/27 審査会]	理解していただける方もいたが、盛土による水害が発生するのではないかという御心配を持たれている方もいて、事業者の説明では不安が払拭できるような状況ではなかった。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]
	御意見を出された住民の方はまだ納得されていないようなので、事業を進めていく上でどう影響するか少し懸念されるがどうか。 [9/27 審査会]	シミュレーションの結果を繰り返し御説明することしかないと考えている。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]
	事務局はどう対応すべきと考えているか。 [9/27 審査会]	【事務局が回答】 準備書に対する意見書を募集している期間なので、その内容も踏まえ、検討していただければと考えている。 [9/27 審査会]	
	【審議での指摘事項等】 横浜市は、災害時の設定水位といった前提条件を随時見直すと思うが、ハザードマップを見直す機会はどのタイミングか。現在のものをしばらく使っていくということか。 [9/27 審査会]	【事務局が回答】 今のところ更新することは聞いていない。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]
	<u>「横浜市下水道事業中期経営計画 2018」について、事務局から補足説明はあるか。</u> [10/31 審査会]	【事務局が回答】 <u>この中期経営計画は、今後4か年の下水道事業の進め方をあらかじめ計画して公表するものである。</u> <u>戸塚地区においては、下水道の整備水準が現在 50mm/h までの対応しかできていないので、60mm/h の整備を計画的に進めていく地区として、この計画の中で位置づけている。</u> [10/31 審査会]	説明済 [10/31 審査会]
	<u>今後4年間で、60mm/h の整備が完了する予定ということか。</u> [10/31 審査会]	【事務局が回答】 <u>大変大規模な工事になりそうなので、着手はするが、完了は4か年以降になる見通しである。</u> [10/31 審査会]	
	<u>内水と外水ははっきりと分けることが必要だと思う。内水に関しては、敷地内から出る雨水と敷地外から管で繋がって入ってくる雨水が、周辺においてどのような割合を示すことができるのか。</u> [10/31 審査会]	<u>データを持っていないので、検討できるかどうかは別として、これから調査したいと思う。</u> [10/31 審査会]	補足資料3で説明予定 【本日】

事業計画 (浸水関連)	量よりも割合というか、どの程度の貢献ができているかに関する説明の仕方が重要だと思う。 [10/31 審査会]	—	補足資料 3 で説明予定【本日】
----------------	---	---	-------------------------

■環境影響評価項目について

項目	指摘、質問事項等	事業者側の説明等	取扱い
生物多様性	コチドリの環境保全措置として東側敷地（将来用地）のアスファルト舗装の角部分に砂利敷を設ける計画だが、この様な砂利敷にコチドリは来るのか。東側敷地の盛土の法面の舗装部分を草地とし、これに連続するように砂利敷の環境を増やすというような、景観的に配慮した保全措置も考えられるのではないか。 [9/14 審査会]	芝生にするかどうか等も含め、検討していく。 [9/14 審査会]	補足資料 2 で説明予定【本日】
	アスファルト舗装は、温熱環境に対する影響も大きいので、ネガティブなものを出来るだけ減らした暫定空間を確保すること。 [9/14 審査会]		
	コチドリは植物が生えた環境には適さず、裸地状態が一番良い。空間の規模等を勘案し、専門家に相談してベストな方法を検討すること。 [9/14 審査会]	草丈が長いとコチドリは寄ってこないこと等、御指摘は認識している。詳細計画に生かしていければと考えている。 [9/14 審査会]	補足資料 2 で説明予定【本日】
大気質	浮遊粒子状物質の予測値について、建設機械の稼働による予測値と工事用車両の走行による予測値に対し、それらを合算した予測値が異なっている理由は何か。 [9/14 審査会]	建設機械の稼働による影響と工事用車両の走行による影響をそれぞれ単体で予測した結果に対し、それらを合算した予測結果を示している。方法書段階で、合算した影響を検討するよう市長意見があった。 [9/14 審査会]	説明済 [9/14 審査会]
	建設機械の稼働による予測値と工事用車両の走行による予測値の範囲から取ったのではなく、それらを合算したものを新たに予測したということか。 [9/14 審査会]	道路沿道の予測地点 1～6 の道路断面で予測したものに対し、建設機械の稼働による影響の等濃度線の予測結果を重ね合わせて、合算すると、このような予測値になるということを検証した。 [9/14 審査会]	説明済 [9/14 審査会]
	工事用車両の走行による影響 0.011mg/m ³ に対し、建設機械の稼働による影響を合算すると、0.012mg/m ³ となるのは正しいのか。 [9/14 審査会]	0.011mg/m ³ に対し、0.012mg/m ³ ということで、その値の差分だけ建設機械の稼働による影響が加わっている。 [9/14 審査会]	

騒音	工事中の騒音の予測値について、地点3で6 dB、地点4で3 dBの上昇とあるが、3 dBだと交通量が2倍に、6 dBだと4～5倍くらいに現状から増えるのではないかと感じ、6 dB上昇だと敏感な人はうるさいと感じ、6 dB上昇では明らかに住民はうるさいと感じると思う。改善し、せいぜい3 dB上昇くらいに抑えること。 そのためには交通量を減らすしかなく、地点3に工事用車両の出入口があるので、他の出入口を使うなどした方がよい。地点3には住居があるようなので、6 dB上昇はもう少し考えた方がよい。 [9/14 審査会]	御指摘の予測値は、建設機械の稼働による騒音レベルと工事用車両の走行による等価騒音レベルを合算したものであり、工事用車両が倍になるという状況ではない。 工事用車両の走行による影響の予測地点1～6に対し、建設機械の稼働による影響の等価騒音線（準備書P.6.5-19）を重ね、各地点での騒音レベルを合成した場合に何 dBになるかを予測したので、工事用車両と建設機械の複合影響となる。 予測結果はピーク時のものであり、それ以外の期間ではより影響度が下がってくると思うが、結果を踏まえ、騒音・振動の環境保全措置により影響の低減に努めてまいりたいと考えている。 [9/14 審査会]	説明済 [9/14 審査会]
	建設機械の稼働による騒音は、場所によっては大きくなるが、一番音が大きくなるときに予測値くらいであると、1週間や10日程度の範囲であれば、事前に工事説明をすれば我慢できる範囲かと思う。説明を丁寧なことにすること。 [9/14 審査会]	承知した。 [9/14 審査会]	
振動	振動は、騒音と違い50 dBを超えると明らかに迷惑感を感じる。地点3と地点5の予測値が51 dBなので、振動の苦情が出るかもしれない。 振動を抑えるには工夫が必要だが、路面やマンホールへの工夫が考えられる。50 dBを超えた箇所は工夫した方がいいのではないかと。 [9/14 審査会]	予測結果はピーク時のものであり、それ以外の期間ではより影響度が下がってくると思うが、結果を踏まえ、騒音・振動の環境保全措置により影響の低減に努めてまいりたいと考えている。 [9/14 審査会]	説明済 [9/14 審査会]
安全	<u>RI 実験室の放射線量をモニタリングしているという説明だが、「公開してほしい。」という住民意見がある。モニタリングした結果は公開するのか。</u> [10/31 審査会]	<u>放射線量については常時モニタリングしているが、基本的に、異常値が出た場合には届出をする形になると思う。住民から要望が出てくることについては、今後、RIに限らず、戸塚区とも調整しながら、どのように示していくのがよいか調整したい。</u> [10/31 審査会]	説明済 [10/31 審査会]

安全	「扱う生物に変更がある時は、近隣に対して説明を行う必要性も感じる。」という住民意見に対して、事業者の見解は、「生物種の変更の場合には、安全管理が徹底できるようにする。管理基準の変更が必要な場合は近隣の皆様に説明する。」とあるが、生物種の変更の際に説明をするということはここには示されていない。どう考えているのか。 [10/31 審査会]	管理基準を変更しない細かなところを一つ一つということは、日々の研究環境の変化から難しい。きちんと管理していく上で基準を変更しなければならないような、例えば感染症法で定義されているような生物を扱うとか、これまで扱わないと決めていたものを扱うときは、地域の皆様に説明し、それからの運用としていきたいと考えている。 [10/31 審査会]	説明済 [10/31 審査会]
----	---	---	----------------------------

■ 手続等について

項目	指摘、質問事項等	事業者側の説明等	取扱い
手続	説明会で市民の方からの質問に対し「横浜市にお伝えします」という事業者の回答があったようだが、横浜市の見解は出ているのか。例えば、土管については、どのような処理になるのか。 [9/27 審査会]	【事務局が回答】 事業者が横浜市に質問内容を伝えた後、横浜市から市民の方に対し、見解を返すという手続は、環境影響評価の手続上はない。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]
	市民の方から、その後どうなったかという問合せは来ないのか。なければ良いが、うやむやになるのは良くないのではないのか。 [9/27 審査会]	【事務局が回答】 この件に関しては、今のところ、問合せは来ていない。横浜市は市民の方からの御意見を聴くシステムを設けているので、そちらに来れば横浜市の見解を回答できる。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]
	それは公表されるシステムなのか。 [9/27 審査会]	【事務局が回答】 まずは市民の方に回答した後、御意見のタイトル等の内容を公表するシステムとなっている。 [9/27 審査会]	説明済 [9/27 審査会]

■ 審議での審査会委員の御意見について

項目	御意見
事業計画 (浸水関連)	最近は気象条件が過激になってきており、それが常態化しているという背景のもとに、今後、審査会として、どのように議論していった方がいいのか考えなければいけない。 [9/27 審査会]
	事業を始める前の段階で、お金がかかることや、企業なのでコストや時間を考えなければいけないことも分かるが、どのレベルでやるのかはもう少し議論が必要ではないのか。 [9/27 審査会]

事業計画 (浸水関連)	最近は何十年に一度の雨が頻繁に起こるので、横浜市がそれをどう捉えていくのかが、とても大事である。気象庁等と協議し、まず横浜市が全体としてどうするのか考えた方がいいのではないか。その上で、個々の企業が対応するという形に進めざるを得ないのではないか。 [9/27 審査会]
	恐らく事業者としては、法令上で求められることはやっており、それ以上のコストをかけて企業の信用を保つかという経営的な問題になるのではないか。これに対し、審査会としては、法令上最低限のことをやってくださいという意見ではなく、それ以上のことをやってくださいと述べてもいいのではないか。 [9/27 審査会]
	確認した限りでは、解析の信頼性はかなり高い。土木分野の専門家として言うのであれば、追加の解析は必要ないと思う。ただし、住民の方々に納得していない方がいることをどう捉えるか。議論があった方がいいのではないか。 [9/27 審査会]
	準備書段階で指摘できるとすれば、事後のモニタリング体制をしっかり作ることではないか。計器でモニタリングする体制を確保することや、その時に LCP、BCP の観点から協議するテーブルを確保することが考えられる。アセスだけで解決しきれないことを住民の方にも御理解いただき、物別れにならないことが一番大事なのではないか。 [9/27 審査会]